

平成 29 年 6 月

学校関係者評価報告書

学校法人 名古屋大原学園
大原簿記医療観光専門学校津校
学校関係者評価委員会

平成 29 年 3 月に実施しました、自己点検・自己評価の結果をもとに、学校関係者評価の実施を行いました。「1. 教育理念・目標」以下 11 項目にわたり、学内で評価された問題点とその改善のための方策並びに両者に関する関係者からの評価と助言を掲載します。

1. 教育理念・目標

【課題】

全体として「適切、ほぼ適切」と評価がされている。

昨年度の自己点検と比較し④「学校の理念・目的、育成人材・特色・将来構想などが 学生・保護者に周知されているか」及び⑤「各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」について、「ほぼ適切」が増加した。昨年度、入学した学生に対する職員側の理解度、浸透度により周知不足が発生していることが考えられたため、これらを改善するために責任者による理解度の確認を実施したが、今年度も引き続き確認を進めなければならない。

業界のニーズや社会変化に対応したカリキュラムとして学園が独自に開発した職場の基礎力を身に付けるカリキュラムを実施しているが、職場で必要となる能力は変化をしているため、将来構想の変化にも積極的に取り組み、それらの取り組みを保護者等に周知される手段についてさらなる改善を行うことが課題である。

【今後の改善方策】

④について、保護者に対しクラス担任が電話連絡を実施するときや、保護者・学生・クラス担任の三者面談を実施のときに、学園の教育理念・教育目標・入学目的・理想となる育成人材について話し理解してもらうことが今後の改善方策である。

【関係者評価】

全ての項目について概ね適切に取り組みがされており、自己点検・自己評価については特に問題はないと思われる。

学園の教育理念や教育目標は入学以前より説明がされているとのことであり、入学後においてはビジネス基礎能力（自己管理力、協調行動力、海外行動力、IT活用力）により「職業人」意識の向上を図られていることは評価できる。しかし、職員側の理解度、浸透度により周知不足が発生していることへの改善が進まれていることが懸念されるため引き続き責任者による啓蒙を行ってほしい。また、保護者に対しては、教育内容や就職指導方法について不透明感が無いように入学後の説明機会を増やしてほしい。

社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想について実践的な職業教育のさらなる充実を図ってもらいたい。それらの実現に向けて教育課程編成委員会の意見を取り入れたカリキュラムへの改定を行い、社会変化に対応した将来構想を持ってもらいたい。合わせて職員の時代対応力を高め、時代の変化をどのように捉え、それに対してどのように改善を行ったかを報告してもらいたい。

2. 学校運営

【課題】

全体としては「適正・ほぼ適正」と評価がされている。

昨年度の自己点検と比較し⑥「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」について「ほぼ適正」の評価が増えている。学生数の増加に伴い、顕著化された問題に対してのことであると考えられる。また、⑧「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」について、学生管理や学内業務で情報システム化の変更を平成 27 年度より進めているが、平成 29 年度より本格稼働することにより、重複業務の効率化を進めることが課題となる。

【今後の改善方策】

⑥については、学生に対し法令を遵守し、倫理観や品格の向上に向けて、学期毎に実施される全体会議や日々のミーティングにより責任者が教員に対して啓蒙を行う。また、学校近郊の企業や住民の方に対しては引き続き、迅速かつ配慮ある行動を行っていく。

⑧については、平成 29 年度に学生管理システムの変更が行われる予定である。教員への研修を実施し、円滑に導入させ、業務効率化を進める。また、昨年に引き続き、多くの個人情報を取り扱うため、学園が定める個人情報保護規則の確認を行い、コンプライアンスの体制の強化に努める。

【関係者評価】

「学校運営」に関しては概ね適切に取り組みがされており、自己点検・自己評価については特に問題はないと思われる。

新しい情報システムを導入し、教職員の業務の効率化を図ることは評価ができる。さらに、教育機関非常に多くの個人情報を扱うため、この機会に個人情報の取り扱いについての確認と研修を行ってもらいたい。社内の基本的な取り扱い規定の確認、セキュリティーに関する資格の推進、教育機関が行うべきセキュリティーレベルの確認、外部研修の実施を検討してはどうか。合わせて近年では、小・中学生からソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）によるトラブル増加が社会問題となっているため、学生への個人情報への教育も行ってもらいたい。

地域貢献の一環として学校周辺の清掃作業や道路沿い設けら花壇の手入れを行い、近隣との関係性を良好に保つことなどは今後も引き続き実施してもらいたい。

3. 教育活動

【課題】

全体としては「適正・ほぼ適正」と評価がされている。

⑦「授業評価の実施・評価体制はあるか」については、授業聴講、授業評価を実施したことにより改善がされた。

⑬「関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか」については、関連分野や高等学校教員との指導力向上に関する研修が実施されているが、関連分野との取り組みを増やし研究を進めたとの意見により「ほぼ適切」が多くなっている。

昨年度の自己点検と同じく、下記の項目につき「やや不適切」との評価が多くなっている。

⑤「関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか」、⑥「関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）の体系的な位置づけられているか」、⑧「職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。」

⑤、⑥の関連分野の企業・業界団体等の外部関係者との連携及び職業教育については、提言を受けた意見について柔軟性を持って対応してきたが、外部関係者との連携やインターンシップ先の開拓を更に充実させることが課題となる。

⑧については、外部関係者の方の評価を取り入れ、改善点や先端的な情報をカリキュラムに反映させる体制作りが課題となる。

【今後の改善方策】

今年度において、関連分野の企業や業界団体等との連携によるカリキュラムの作成・見直し等を行い、実践的なカリキュラムの準備に取り組んできたが、次年度においては、更に教職員の職務能力の向上を図るために、外部企業と連携し実務知識、技術力を向上させる研修への積極参加を推進していく。

三重県の特徴として、学生の住居によってはインターンシップの受け入れ先が少ない地域があるため、医療事務科やインターンシップに代替する関連業界でアルバイト実習を行っているホテル・ウェディング科は幅広い地域での受入先の開拓を継続して行う必要がある。さらに、税理士・企業会計科はインターンシップの実施時期や様々な業種・業界を選択できる受け入れ先の開拓を行い、職業体験の充実を図る。

授業評価の実施については、授業聴講の実施・評価・フィードバックを昨年度に引き続き継続して行う。また、外部受託授業が増加しているため、それらの講義前に多くの教員による聴講を行い、一定の授業水準であるかの検証を行う。また、引き続きタブレット型情報端末の活用を行い、学生の自宅学習管理方法やプレゼンテーション技法についての研修によりスキルアップを図り、より社会の変化に対応した内容に授業を進めていく。

【関係者評価】

「教育活動」に関しては概ね適切に取り組みがされており、自己点検・自己評価については特に問題はないと思われる。

現在の教育カリキュラムについては資格取得の実績もあり、それらを達成するために教職員の指導力向上にも授業評価体制を整え実施している点においては評価ができる。また、就職教育においてビジネスマナーを始めとするビジネススキルを高め入社2年目レベルを目指していることは評価できるが、一

般常識を持ち合わせていない若者が増えており、それらが早期退職に繋がることも予想されるため、基本的な知識等もカリキュラムに取り入れることを検討してもらいたい。

⑥「関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）の体系的な位置づけられているか」について地域性からインターンシップの受け入れ先の開拓を課題として上げているが、関連分野を大きく捉え、特に人口の減少、過疎化が進む三重県の南部における「地域活性化」のプロジェクトに学生を参加させることを検討してもらいたい。税理士・企業会計科であれば予算を始めとする収支計算、ホテル・ウェディング科であればホテルの利用を通じた町興しの企画等で、学科において学んだ教育内容を実学で発揮する機会を設けることにより、貴校自体の認知度や各学科の教育内容の評価が高まることが期待される。

4. 学修成果

【課題】

昨年度の自己点検では、④「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」、⑤「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」については、やや評価が低くなっていたが、今年度においても「ほぼ適切」に留まっている。卒業後のキャリア形成について一部の学生が対象となり、全体を把握できなかったことによるものと考えられる。よって、全体を対象とした聞き取りや内容の集約が課題である。

③退学率の低減が図られているかで、「やや不適切」との評価があったが、「ほぼ適正」まで改善された。退学率の改善については、クラス担任制を活かし、細やかな対応により行っているが、保護者との連携が体系的に行われていないため、家庭での理解や協力が得られるようにすることが課題である。

【今後の改善方策】

卒業後の状況は、昨年度に引き続き就職後6カ月を目処に卒業生に対して、担当教員が聞き取り調査を実施する予定であるが、連絡が取れなかった際の対処方法及び聞き取れた意見の集約を行い情報共有できるようにする。卒業後の活躍状況や評価は、就職サポート室担当者による企業訪問により聞き取り調査が実施される予定であったが、全体を対象として行われていないため、担当者と連携を取り、確実に情報取得し就職教育にフィードバックしていきたい。また、仕事内容の把握や研究ができるように卒業生による講演を回数を増加させていく。

学業成績の不振や人間関係を上手く構築できないのは、入学前の状況に問題がある場合が多いため、早期に原因把握をするためには本人との面談だけでなく、保護者と情報交換を積極的に行う。昨年より電話連絡や希望する方にはメール機能により退学防止に努めているが、浸透力が弱いため次年度は強化していきたい。

【関係者評価】

「学習成果」に関しては概ね適切に取り組みがされており、自己点検・自己評価については特に問題はないと思われる。

保護者との連携は、退学率の減少や就職活動において重要なこととなり、特に学生本人から説明されない情報を取得する機会にもなるため、今後においても保護者の協力が得られる体制と信頼関係を構築

してもらいたい。

卒業後のキャリア形成の把握は、教員のカリキュラム研究の側面に留まらず、卒業生を学校に招き在校生に講演会を実施してはどうか。実際に自分が目指す分野で仕事をされている人の講演を聞くことにより、現在の学習の重要性や職業人意識の向上が期待される。

5. 学生支援

【課題】

全体としては「適切、ほぼ適切」と評価がされている。

④「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」について昨年度において解消されるつつあるとの評価を行い、また、今年度においてメンタルヘルスに関する知識習得も実施された。しかし、それらの知識を精神的に悩みのある学生との面談等実際現場で、活かしたカウンセリングができるが課題である。前年の自己点検において⑦「保護者との連携について」は全員が「ほぼ適切」が多かった、保護者に対して、成績表の送付や欠席、遅刻が多い学生に対する電話による確認を行ったことにより、今年度はさらに解消に進んでいる。しかし、教育内容が伝わっていないことにより、確認を求められた事例もあるため問題発生時だけでなく、保護者と連携を深め、退学防止策に努める必要がある。

【今後の改善方策】

学生の問題については、メンタルヘルスの知識を活用し、担任及び責任者を含めた学校全体で問題解決にあたる。、さらに、研修を検討し様々な学生に対応できる能力を向上させる。

保護者との連携については、昨年引き続き問題が発生した場合でなく、入学直後、就職活動開始時、進級直後に担任により連絡や説明会を実施し学校との信頼関係を深めていく。また、電話連絡が困難な場合は、メール機能による連絡相談を行っていくが、学校行事等の定期連絡を入れることによりメールの利用率を高めていく。

日常的な健康管理については、医療機関による健康診断の実施とともに学生手帳を活用し自己管理能力により、規則正しい生活習慣を身に付ける必要性を啓蒙する。

【関係者評価】

「学生支援」に関しては概ね適切に取り組みがされており、自己点検・自己評価については特に問題はないと思われる。

現代の大きな社会問題である精神的な健康管理への取り組みとして、全教員が「メンタルヘルスマネジメント」の資格を取得したことは評価できる。カウンセリングの機会はタイミングが大切であるため、タイムリーな面談によりケアしてもらいたい。また、最近の学生は自己解決力が低下してきており、様々な相談を受ける機会や指針を示す機会が増えている傾向にあると聞くため進路・就職に関する支援体制として「ジョブカード作成サドバイザー」への資格取得研修は今後も進めてもらいたい。

高専連携契約を締結し、簿記検定試験対策やビジネスマナー教育により商業教育の発展に寄与している点は評価できる。今後においてはさらに多くの高等学校と高専連携契約を締結し、地元貢献を目指してもらいたい。

6. 教育環境

【課題】

全体としては「適切、ほぼ適切」と評価がされているが、昨年度の自己点検に同様と②「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」について「やや不適切」の評価がされている。インターンシップについては、受け入れ先の開拓を継続して進め充実を図ることが課題である。

③防災に対する体制の整備については、地震時の基本対応マニュアルは作成されているものの、各種防災対策（避難訓練、水、食料の備蓄）への継続的取り組みが課題となっている。

【今後の改善方策】

インターンシップについては、地域性や実施時期を考慮し学生の満足に繋がる実習先、受入先企業の開拓を継続して行う。

海外研修については学園が支援する「オーバーシーズプログラム」の積極的に利用を促していく。海外研修へのインセンティブとして、海外での行動力を養う講座の実施、授業内における関連英語の紹介、教材の一部には基本英会話や中国語・韓国語の簡単な会話用語の掲載されている。それらの学習と海外研修への参加により、グローバル化に向けての学生の意識改革に取り組む。

防災対策については、本年も教員が地域の東海・東南海地震を想定した防災訓練に参加し、作成された防災マップや訓練内容を職員研修で報告を行った。しかし、学園全体による避難訓練の実施が行われなかったため次年度は年度計画に盛り込んでいく。

【関係者評価】

「教育環境」に関しては概ね適切に取り組みがされており、自己点検・自己評価については特に問題はないと思われる。

平成27年より大谷町自治会は、貴校を地域の避難時集合場所として指定しており、さらに震災に関する研修会を使用してきたこともあり教員の震災に関する意識が高いことが考えられる。今後においても継続して震災時の避難場所としてお願いしたい。また、地域の防災訓練へ多くの教員に参加してもらい災害時の防災マップ等のマニュアル作りに活かしてもらいたい。

グローバル化に向けての海外研修については、希望者が少ないとのことであるため海外旅行の経験者によるプレゼンテーションにより魅力を伝え海外研修を促してはどうか。ただ、世界情勢が不安定であるため慎重に準備を進め、今年度については他の方法によりグローバル化を図ることを検討してもらいたい。

7. 学生の受入れ募集

【課題】

全体としては「適切」または「ほぼ適切」と評価がされている。

②「学生募集において、教育成果は正確に伝えられているか」について前年度と比較し「ほぼ適切」が増えている。教育成果を伝えるために高校訪問の回数を増やしてきたが、タイムリーな情報とならな

いケースがあったことによるものである。また、前年度と同様に高等学校、大学・短大等の既卒者、キャリアアップによる転職者等への認知度も低い現状であるため、さらなる認知度の向上が課題となっている。

【今後の改善方策】

津校に設置されている学科や教育内容が高校生に認知されていないため高校訪問を実施し、高等学校の教員の方々への認知度を上げてきたが、訪問者が伝える情報量に不足が発生しないように事前研修会を実施し、プレゼンテーション能力の平準化を図る。

資格合格実績や就職実績、学内外の研修についてスピーディーにホームページやSNSを活用し伝えていく。また、引き続き大学・短大の卒業生・大学退学者等の既卒者、転職者を受け入れる研究をすすめ募集を強化する。

津校の特色である教育成果について、在校生や卒業生から高校生等もたらされることが多いため、資格、就職実績により在校生の満足度の向上に努める。

【関係者評価】

「学生の受け入れ募集」に関しては概ね適切に取り組みがされており、自己点検・自己評価については特に問題はないと思われる。

学園総合案内書に記載されている学園案内、募集要項、各学科の小冊子により学園情報が詳しく掲載されており問題はない。また、年間数回に及ぶ高校訪問により卒業生や在校生の情報提供を行っている点も評価できる。高校訪問において、それらの情報提供を起点とし貴校の教育理念や教育目標を伝えて認知度の向上と教育内容への理解を深めてもらいたい。

学費については、学費免除制度や学生の経済状況に応じた学費分納制度は今後も継続して行い、地元進学に貢献し、若者の県外流出に歯止めをかけてもらいたい。

8. 財務

【課題】

昨年度の自己点検と同様に、全体として「適切」「ほぼ適切」と評価がされている。

【今後の改善方策】

専門課程入学者は、定員までは達していない状況である。よって、募集増加を図るため体験入学・説明会、高校訪問、情報発信、校内美化を組織化し職員全身体制による募集活動を継続する。

専門課程が使用しない時間を利用した附帯教育の認知度が上がってこないため大学等を含めた広報活動を強化する必要がある。

【関係者評価】

「財務」に関しては概ね適切に取り組みがされており、自己点検・自己評価については特に問題はないと思われる。

財務については安定しており、情報公開の体制が整備されているため継続して行ってもらいたい。ま

た、中長期的な財務基盤の安定のために学生募集の工夫や数年後を見据えた教育内容の検討を行ってほしい。

9. 法令等の遵守

【課題】

全体として「適切、ほぼ適切」と評価がされた。

③「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」が「ほぼ適切」が半数あり、前年と同様の結果となっている。前年の自己点検において上げた問題点のうち、今年度において実施、改善が進まない項目があったことにより評価されたものである。次年度においては、問題点を確実に改善するように努める。

【今後の改善方策】

法令、専修学校設置基準に基づき法令遵守に努める。また、学園が定めた「個人情報保護法規則」を教職員が遵守するように研修、啓蒙を今年度も継続する。

自己点検・自己評価は年度末の3月に実施し、評価結果に基づき改善を行うとともに、学園外部に対しては、自己点検評価結果を学園ホームページで公開する。

【関係者評価】

「法令等の遵守」に関しては概ね適切に取り組みがされており、自己点検・自己評価については特に問題はないと思われる。

自己点検結果に基づいた学校関係者評価委員会が開催され、関係者評価結果は学園のホームページで公開を行っているため問題はない。なお、それらの自己点検及び評価に関する結果を今年度に改善してもらいたい。

10. 社会貢献・地域貢献

【課題】

全体としては「適正・ほぼ適正」と評価がされている。

昨年度の自己点検では、①「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」については、「ほぼ適切」の評価であったが、今年度は「適切」となった。ビジネスマナー講習や簿記講習を実施し、津駅前での利便性を活かし各種試験会場や研修会場として学校施設の活用を行い、さらに、地域住民の方に積極的に利用して頂いたことにより改善が進んだと考えられる。

②「学生のボランティア活動を奨励、支援しているか」については「やや不適切」の評価がある。ボランティア要請があった場合に情報提供を行い、今年度において一部の学生が参加を行った。次年度はさらに参加学生を増やするために、年間を通してボランティアに参加できるように情報収集することが課題となる。

【今後の改善方策】

社会貢献・地域貢献として、地元自治体への学校施設の活用を積極的に行い、防災訓練及び災害時における研修会会場としての貸し出しや子供会の研修等にも貸出を行った。さらに敬老会や各種勉強会へ

の貸し出しも積極的に行い、地域貢献を行う予定である。

ボランティア活動については、地域ボランティアに関する依頼が学生の参加を機に増えつつあるため、学生への情報提供を行うと共に、一層の参加を促していく。

【関係者評価】

「社会貢献・地域貢献」に関しては概ね適切に取り組みがされており、自己点検・自己評価については特に問題はないと思われる。

津駅前立地条件を活かし、地元自治会、子供会、敬老会への学校施設の貸し出しによる社会貢献を継続して行ってほしい。また、ボランティアも昨年同様に取り組み地元貢献に寄与してほしい。社会人の方や退職された方の「学び直し」の機会が三重県には少ないため、そのような人達が学習できる教育機関として期待する。

1 1. 国際交流

【課題】

外国人留学生向けの募集要項を毎年制作し配布しているが、入学者数は僅かである。これは国家資格の受験対策には高度な日本語読み書き能力が必要であり、片言の日本語会話ができる程度では授業内容が理解できないためである。日本の滞在ビザ取得を目的とした入学問い合わせは多数あるが、実際の授業内容を説明するとほとんどのケースで入学には至らない。

国際化が進む現在、学内に多数の留学生が在籍するキャンパスは日本人学生にとっては刺激を受ける好環境になりそうである。ただ学習には高度な日本語能力が必要になるため、実際の留学生入学者は少ない状況にある。

学校ホームページを通して資格合格状況、合格率、就職内定状況、内定率などを詳しく公開しているが、すべて日本語表記であり、国外に対する情報発信は行っていない。従って国外で評価される仕組みは現状では無い。

【今後の改善方策】

外国人留学生を安易に大量入学させる方針ではないので、当面この状況は変わらない。

【関係者評価】

「国際交流」に関しては概ね適切に取り組みがされており、自己点検・自己評価については特に問題はないと思われる。

少子高齢化により労働人口の減少が問題となっている。今後、外国人労働者の受け入れがさらに増加と予想されるため、それらを見越した留学生の募集方法、受け入れ方について留学コーディネーターと検討をしてみてもどうか。

学校関係者評価委員会

役職	氏 名	現 職
委員長	中嶋 年規	三重県議会議員
委員	新山 英治	元 高宮小学校校長、大谷町自治会長
委員	服部 光知哲	有限会社安藤会計センター 取締役
委員	堀場 和夫	株式会社キャスルサービス 人材研修事業部課長
委員	杉本 紗江	社会医療法人 鈴鹿回生病院（平成 26 年度卒業生）